

# 農業委員会だより



今年も豊作を期待して、稲刈りを迎えました。(9月8日三保谷地区にて)

- ごあいさつ (川島町農業委員長)
- 創刊にあたって (川島町長)
- 農業委員を紹介します
- 農地の利用集積を推進!
- 耕作放棄地の解消にご協力を!
- 農地法の許可について
- 世界的に食糧が減少し価格も高くなる!
- 野菜の力はすばらしい
- 編集後記

## 創刊号

平成20年9月20日発行  
発行：川島町農業委員会  
編集：川島町農業委員会だより編集委員会  
〒350-0192  
比企郡川島町大字平沼1175  
電話 049(297)1811



川島町農業委員会 会長  
横川三男

初秋を迎え、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日頃より農業委員会の業務に対しご理解をいただき、深く感謝申し上げます。さて、私たち農業委員は平成十八年五月に有権者の信任及び関係機関の選任を経て現在十七名の委員が活動しているところです。

最近のニュースでは、エネルギー、環境、食料問題などが報道され、食料をとりまく情勢も、ますます厳しさが増していくものと思われまます。食料の自給率の乏しいわが国では、荒廃農地の増大を懸念し今年度、大規模な耕作放棄地調査を実施し、対応策を図ることとしています。

当委員会としても、増え続ける荒廃農地には憂慮しているところであり、農地は食料

を生産する基盤ですので、これらの課題にも積極的に取り組んでまいります。優良農地に恵まれている本町では農地の生産環境を維持・活用してこそ町農業の発展があるものと思えます。今後においても、町の農業の発展のため、また農業者の代表としてその役割を充分果たせるよう委員一丸となつて努力してまいります。より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。創刊号発刊にあたってのあいさつといたします。

創刊にあたって



川島町長 高田 康男

「川島町農業委員会だより」が創刊されるにあたりお祝いのごあいさつを申し上げます。日頃より町政の推進にあたりましては、農業委員さんをはじめ町民各位のご理解とご協力により、順調に推移していることに対し厚く御礼申し上げます。

さて、農業をとりまく情勢は非常に厳しさを増しており、農業者の高齢化や若者の農業離れ、農作物の価格の低落等から荒廃農地の増加傾向がうかがえます。

このような中で、町では米を中心とした農業が行われてきましたが、近年、米麦等の価格の低迷から土地利用型農業を行っている農家にとつては農業経営の効率性が求められてきております。

このため町と農業委員会では、分散する農地を集約化することで、経営の大型化による経営効率を図るため、平成十八年度から耕作農地を三十九アール程度の区画で耕作ができるよう「担い手農家利用集積モデル圃場整備事業」を実施してまいります。

この事業に取り組むことで、優良農地の保全と農業経営の安定が図られるものと考えておりますので、農業委員会を中心にさらに事業の推進が図られることを願ってやみません。

地域農業の発展と、農業委員会の活躍をご祈念申し上げます。創刊にあたってのあいさつといたします。

農業委員を紹介します

農業委員は現在、十七名の委員が信任及び選任され活動しております。地区担当は次のとおりです。

○氏名(敬称略) 担当地区

- |      |        |        |       |        |
|------|--------|--------|-------|--------|
| 飯島 清 | 中廊・宮本  | 伏木・久保  | 宇津木忠征 | 出丸本    |
| 安田勝治 | 上廓・南園部 | 吹塚     | 上大屋敷  | 下大屋敷   |
| 岡部登一 | 北園部・正直 | 北戸守・長楽 | 神山喜一  | 出丸中郷   |
| 大森正明 | 吹塚新田   | 南戸守・八幡 | 友光照夫  | 上八ツ林   |
| 鹿山 武 | 上伊草・飯島 | 安塚     | 沼田隆吉  | 下八ツ林   |
| 土屋祥吉 | 伊草・下伊草 | 角泉     | 鈴木一男  | 東大塚    |
| 木村敏夫 | 平沼・白井沼 | 紫竹・宮前  | 岡部明治  | 三保谷宿   |
| 小島由之 | 上貉・下貉  | 釘無・吉原  | 横川三男  | 山ヶ谷戸   |
| 神立誠次 | 新堀・表   | 出丸下郷   | 尾林惣一  | 畑中     |
|      | 西谷・曲師  |        | 友一・友二 | 牛ヶ谷戸   |
|      |        |        | 鳥東・鳥西 | 虫塚・谷中  |
|      |        |        | 芝沼    | 一本木    |
|      |        |        |       | 梅ノ木・上南 |
|      |        |        |       | 上北・大辻  |
|      |        |        |       | 中組     |



農業委員会定例会議の様子

# 農地の利用集積を推進!

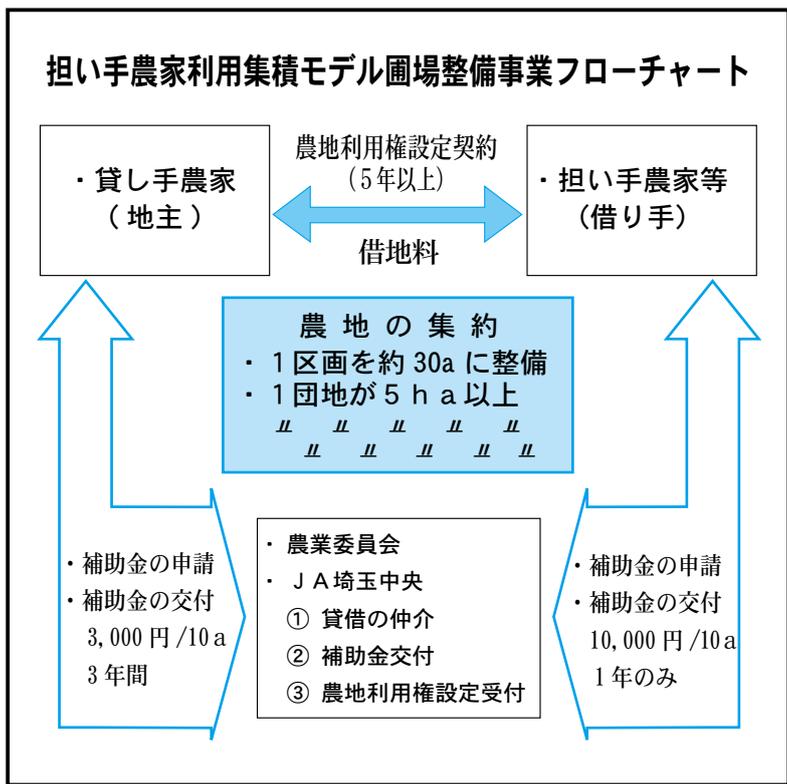
近年の米価や麦価の低落は、土地利用型農業経営を行って農家にとって、経営を圧迫しています。また、兼業農家にとっても農業意欲の低下や若者の農家離れなどから耕作放棄地の増大などの影響が現れています。

永年、米作を中心に行われてきた農業を安定的に維持して行くためには、経費のかからない農業経営が求められています。

そこで、町と農業委員会では農業意欲のある担い手農家に農地を集積し、効率の良い農業を行っていただくことと、平成十八年度から「担い手農家利用集積モデル圃場整備事業」を実施しています。これは、十アール区画の田を農業経営基盤強化促進法に基づく「農用地利用権設定」により貸し借りや交換などによって、圃場の畦畔を取り除き三十アール程度の区画に整備し、作業効率のよい農業が行えるようにするものです。この事業につきましては、

モデル地区を指定し、現在、小見野地区と出丸地区において推進していますが、対象区域の農地で農地を貸した農家に十アール三、〇〇〇円(三年間)を、また農地を借りて圃場を大きくした農家に十アール一〇、〇〇〇円(単年度のみ)を交付して推進しています。

今後も、事業対象区域を拡大し、効率のよい農業経営が行えるよう推進してまいりますので、ご協力をお願いいたします。事業の概要についてはフローチャートを参照してください。



## 耕作放棄地の解消にご協力を!

近年、農業収益の低下から耕作をやめ農地を他の農家へ貸したりもしないで、耕作をしていない農地が目につくようになりまし。このような農地を耕作放棄地または遊休農地ともいい、雑草が繁茂したままであったり、長年放置すると雑木まで生えてきて、農地として復元するには多額の費用や労力が必要となつてきます。また、耕作放棄地では害虫の発生要因、周囲の農地への迷惑、ごみの不法投棄、冬になると枯れ草になり火災の要因となることから、大きな社会問題になっていきます。農家の都合で耕作できなくなつた場合は、担い手農家等へ耕作を依頼するなどして、



今年、8月に農業委員による耕作放棄地の調査を実施

耕作放棄地の発生防止と解消にご協力をお願いします。たとえ農作物を作っていないとしても、いつでも農地を使えるように守っていく必要があります。

いま一度、ご自分の農地が荒れた状態になつていないかを確認し、該当する場合は定期的に耕うんをするなどして、農地としての維持・保全に努めましょう。

### 農地法の許可について

- 一 第三条許可申請  
農地等を売買したり、貸し借りをする場合
- 二 第四条許可申請  
農地の所有者が自らその農地を農地以外に転用する場合
- 三 第五条許可申請  
農地を農地以外に転用し、他人に売却したり貸したりする場合
- ※ 農地の売買・貸借及び転用に関しては細かく規定されています。詳しくは農業委員会事務局までお問い合わせください。
- 四 申請受付締め切り日  
毎月10日締め切り

## 世界的に食糧が減少し 価格も高くなる！

日本の食糧自給率は四〇％といわれています。先進国では、アメリカ、フランスは一〇〇％を超え、ドイツやイギリスでも八〇％程度の自給率です。今日の日本は不足分の六〇％の食糧を輸入に頼らなければなりません。このよ

うな時に世界の食糧事情を新聞等の記事から見てみます。地球の温暖化によるものか、オーストラリアでは大干ばつで、小麦の収穫量が大幅に減少しています。今後、気象の変化で作物の栽培地域、時期の変化が予想されます。そして次にバイオエタノールブームと中国、インド等の経済発展による開発途上国の食糧需要が大きく増加し、高タンパク化して食糧が増産されても穀物の在庫量が減少化傾向になっているといわれています。アメリカではバイオエタノール特需で農家が一斉にと



うもろこし栽培に走ったため施肥量が大幅に増えています。肥料を全面的に輸入に頼る日本では、今年六月から一斉に

前年比一七〇％近く値上がり、水稲の元肥として利用されているものの中には倍額になったものもあります。また投資マネーからも影響されています。シカゴの商品取引所で扱われる代表的なものは、トウモロコシ、小麦、大豆等この取引きに近年は、巨額の資金を扱うヘッジファンドや年金基金などが先物取引に参加して投資マネーが石油や穀物の価格を押し上げる陰の主役にもなっているようです。

温暖化による異常気象、ヘッジファンドの投機資金の流入、バイオ燃料需要の急増肥料の値上がり、金を出せばいつでも安い食糧が手に入る時代ではなくなり、限られた資源の奪い合いの時代になったかと思われま

## 野菜の力はすばらしい

川島町内の農産物直売所は、連日多くのお客様が利用しています。町で採れた野菜が評判を呼んでいます。

身近にある野菜にはどんな効能があるか調べてみました。

**かぼちゃ** ベータカロチンがありガンの予防効果の高い栄養素が豊富。

**キャベツ** 胃腸を強くし胃のただれた粘膜を修復する効果あり。

**きゅうり** イソクエルシトリンという成分は利尿作用、むくみをとる効果あり。

**ごぼう** 食物繊維が多く整腸作用がありコレステロールを抑えて動脈硬化を防ぐ働きあり。

**じゃがいも** ビタミンC、カリウムが血圧を下げ高血圧の予防に効果あり。

**大根** 消化酵素とビタミンCがあり消化不良、胃酸過多に効果あり。

**トマト** 赤いトマトは栄養がたくさん。「トマトが赤くなると医者が青くなる。」トマトは良いことばかり。なす コリン物質があり、血圧低下、胃液の分泌作用、肝機能の改善に効果あり。最近の研究で発ガン物質に対する抑制効果が発見され、むらさきの皮の部分に多く含まれていて、加熱しても成分は変わらない。



トマトは赤いトマトは栄養がたくさん。「トマトが赤くなると医者が青くなる。」

まだまだ野菜の効能はたくさんあります。家庭菜園などで、いろいろな野菜を作ってみてはいかがでしょうか。

## 編集後記

八月中旬、日本列島を襲ったゲリラ豪雨は予想を超えた雨量で農作物に大きな被害をもたらした。間もなく収穫期を迎えようとしていたところに被害を受けた農家の方々に、同じ農業を営む者として、心中をお察しいたします。

さて、最近では、農業に携わる人の高齢化と農業者の減少が問題化されています。日本の農業の将来はどうなるのでしょうか、石油価格の上昇から、あらゆるものの価格が値上がりしています。農業生産費も燃料、肥料、資材が値上がりし、生産苦が感じられる今日ですが、委員会一同力を合せて営農活性化に少しでもお役に立つように、努力をしていきたいと存じます。

編集委員長 鈴木 一男  
編集副委員長 岡部 登一  
編集委員 大森 正明

土屋 祥吉  
木村 敏夫  
宇津木忠征

尾林 惣一  
横川二三男  
飯島 清

相談役

飯島 清